

## 10.7 生物・生態系

### 10.7.1 現況調査

#### (1)調査事項

計画道路は、トンネル等区間において自然保護条例により指定された「連光寺・若葉台里山保全地域」の湿地をトンネル構造で通過し、湿地を形成する地下水への影響が考えられることから、以下の調査項目を選定しました。

#### ア 生物

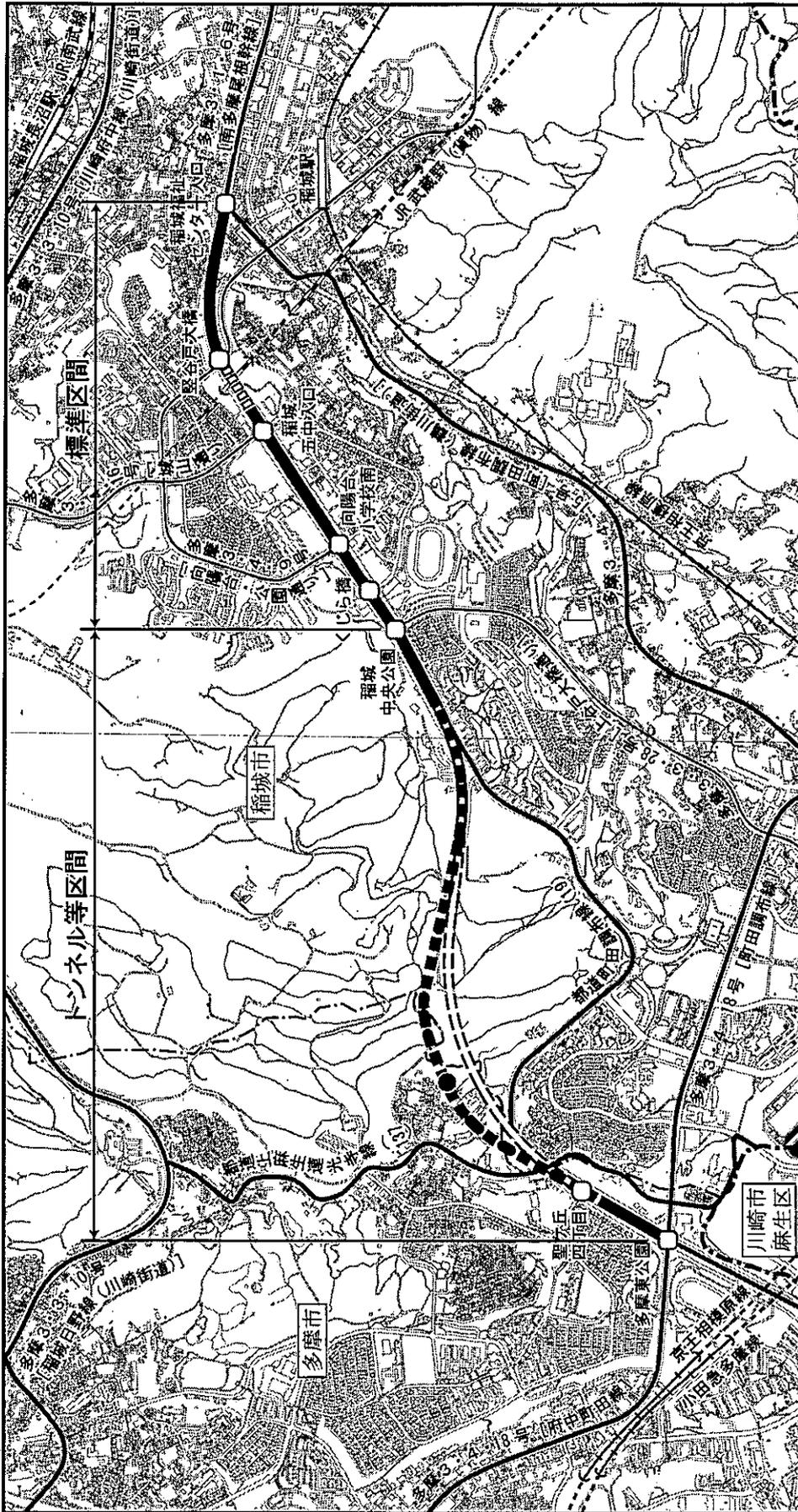
- a 水生生物（湿地の生物）の状況
- b 生息(育)環境
- c 法令による基準等

#### イ 生態系

- a 陸水域生態系（湿地）の状況
- b 法令による基準等

#### (2)調査地域

生物、生態系の調査地域は、図 10.7-1 に示すとおりです。



凡例

- 計画道路 (平面構造)
- 計画道路 (トンネル構造 (A系 既定都市計画案))
- ▨ 計画道路 (トンネル構造 (B系 南側変更案))
- 計画道路 (橋梁構造)
- ⋯⋯ 都県界
- 市界
- 道路 (主要地方道・一般都道)
- 道路 (計画道路と交差する主な市道)

- 交差点
- 鉄道
- 調査地域



1:20,000

図 10.7-1(1) 生物・生態系の調査地域  
【広域図】



凡 例

計画道路

- 計画道路 (トンネル構造 (A案 既定都市計画案))
- - - 計画道路 (トンネル構造 (B案 南側変更案))

その他

- - - 市界
- 調査地域

図10.7-1(2) 生物・生態系の調査地域  
【詳細図】



1:4,000



### (3) 調査方法

#### ア 生物

##### a 水生生物の状況

次に示す二つの既存資料から、調査地域の水生生物の状況に関する情報を抽出し、整理しました。

##### 【使用した既存資料】

- ①「平成 24 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」（平成 25 年 3 月 東京都環境局）
- ②「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」（平成 26 年 3 月 東京都環境局）

##### b 生息(育)環境

「a 水生生物の状況」と同じ資料から、調査地域の生息(育)環境に関する情報を抽出し、整理しました。

##### c 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。

#### イ 生態系

##### a 陸水域生態系の状況

「ア 生物」に示した既存資料に基づき、調査地域の陸水域生態系の状況に関する情報を抽出し、表 10.7-1 に示す方法で整理しました。

表 10.7-1 調査方法（陸水域の生態系）

調査項目	調査方法
生態系の機能及び構造	・環境類型区分 既存資料の現存植生図等を基に、調査地域及びその周辺を立地環境の特徴（地形・土壌水分・植生・土地利用など）の観点から区分し、環境類型区分図を作成しました。
	・環境類型区分内の生物と環境との関係 生態系の類型区分の検討・選定を行った後、類型内の生物と環境との関係について整理しました。

##### b 法令による基準等

関連する法令等を整理しました。

(4) 調査結果

ア 生物

a 水生生物（湿地の生物）の状況

①大型水生植物

i 植物種

(7) 植物相

調査地域及びその周辺では、表 10.7-2 に示す 100 科 417 種の植物種が確認されています。

表 10.7-2 確認された植物の内訳

分類			科種数	
シダ植物			9 科	24 種
裸子植物			3 科	3 種
被子植物	双子葉植物	離弁花類	51 科	174 種
		合弁花類	24 科	108 種
	単子葉植物		13 科	108 種
合計			100 科	417 種

注) 植物相調査は調査地域周辺の樹林を含む範囲で実施されたため、上記リストには調査地域外の確認種数を含みます。植物相調査の範囲はおおむね「連光寺・若葉台里山保全地域（図 10.7-5 参照）」全体です。

(i) 注目される植物種及び注目される理由

調査地域に分布する植物種について、表 10.7-5 の選定基準に基づき、注目される植物種の選定を行いました。

その結果、注目される植物種として、表 10.7-3 に示す 2 科 2 種が選定されました。これらの種の生育状況等は表 10.7-4 に示すとおりです。

なお、これらの種の確認位置は、注目される種の保護のため、図示していません。

表 10.7-3 注目される植物種の選定結果

No.	科名	種名(和名)	選定基準 <sup>注)</sup>			
			1	2	3	4
1	イラクサ	ミズ				NT
2	イネ	エゾノサヤヌカグサ				NT
合計 : 2 科 2 種			0 種	0 種	0 種	2 種

注) 選定基準は表 10.7-5 参照

表 10.7-4 注目される植物種の生育状況

種名(和名)	生育状況
ミズ	湿地の西端の際の林縁部の 2 箇所、合計 13 株（10 株と 3 株）の生育が確認されています。
エゾノサヤヌカグサ	湿地の中央部で、当該種が優占する群落が確認されています。

資料：「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査報告書」（平成 26 年 3 月 東京都環境局）

表 10.7-5 注目される植物種の選定基準

No.	選定基準
1	文化財保護法に基づく国、東京都及び多摩市、稲城市の天然記念物・特別天然記念物 天然記念物 ・特別天然記念物(特天) ・天然記念物(天)
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種 指定種 ・国内希少野生動植物種(国内) ・国外希少野生動植物種(国際)
3	「環境省レッドリスト2018」(平成30年5月 環境省)の掲載種 選定種 ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN):絶滅の危機に瀕している種 ・絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 ・絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 ・絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種 ・準絶滅危惧(NT):現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素のある種 ・情報不足(DD):評価するだけの情報が不足している種 ・絶滅のおそれのある個体群(LP):地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
4	「レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(平成25年5月 東京都)の「南多摩」の掲載種 選定種 ・絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN):絶滅の危機に瀕している種 ・絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの ・絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの ・絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの ・準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの ・情報不足(DD):環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの ・留意種(留):現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの ①準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)/②過去の環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある/③人為的な環境配慮により個体群が維持されている/④外来種の影響に注意する必要がある/⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている/⑥自然の回復状況をあらわしている/⑦良好な環境の指標となる/⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)

ii 植物群落

(7) 植生の状況

調査地域に分布する植物群落及び土地利用は表 10.7-6、現存植生図は図 10.7-2、植物群落の確認状況等は表 10.7-7 に示すとおりです。

表 10.7-6 植物群落及び土地利用

区 分		面積 (m <sup>2</sup> )		割合 (%)			
大区分	細区分						
a	乾性草地	a1	カナムグラ群落	216	216	8.1	8.1
b	湿性草地	b1	ヨシ群落	244	2,095	9.2	78.6
		b2	ガマ群落	209		7.8	
		b3	キシヨウブ群落	734		27.5	
		b4	ミゾソバ群落	599		22.5	
		b5	エゾノサヤヌカグサ群落	309		11.6	
w	開放水域	w	開放水域	354	354	13.3	13.3
合 計				2,665		100	

表 10.7-7 植物群落の確認状況等

区 分		確認状況等
乾性草地	a1 カナムグラ群落 面積：216m <sup>2</sup> (8.1%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地に小規模の群落が分布しているのが確認されています。</li> <li>・湿生植物を覆うようにカナムグラが生育する群落で、生育種は少なく、高い被度でカナムグラの生育が確認されています。</li> </ul>
湿性草地	b1 ヨシ群落 面積：244m <sup>2</sup> (9.2%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地の上流寄りにまとまって分布しているのが確認されています。</li> <li>・ヨシが優占する群落で、ガマ、ミゾソバなどの混生が確認されています。</li> </ul>
	b2 ガマ群落 面積：209m <sup>2</sup> (7.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地の上流寄りにわずかに分布しているのが確認されています。</li> <li>・ガマが優占する群落で、やや水深が深い場所に成立しており、優占種以外の構成種はヨシ群落と変わらないことが確認されています。</li> </ul>
	b3 キシヨウブ群落 面積：734m <sup>2</sup> (27.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地の中央部を中心に広く分布しているのが確認されています。</li> <li>・外来植物であるキシヨウブが優占し、ドクダミ、ミゾソバなどの混生が確認されています。</li> </ul>
	b4 ミゾソバ群落 面積：599m <sup>2</sup> (22.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地の上流端と下流端を中心に広く分布し、やや陽当たりが悪い場所で多く見られる傾向が確認されています。</li> <li>・湿生の一年生草本群落で、様々な水湿環境に生育しているのが確認されています。</li> </ul>
	b5 エゾノサヤヌカグサ群落 面積：309m <sup>2</sup> (11.6%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地の中央の日当たりの良い場所にまとまって分布しているのが確認されています。</li> <li>・湿生の多年生草本群落で、エゾノサヤヌカグサが優占し、ミゾソバ、ドクダミ、ハッカなどの混生が確認されています。</li> </ul>



図 10.7-2 現存植生図

凡 例

計画道路

- 計画道路 (トンネル構造 (A案 既定都市計画案))
- - - 計画道路 (トンネル構造 (B案 南側変更案))

その他

- - - 市界
- ⋯⋯ 調査地域

植物群落及び土地利用

a. 乾性草地

- a1 カナムグラ群落

b. 湿性草地

- b1 ヨシ群落
- b2 ガマ群落
- b3 キショウブ群落
- b4 ミゾソバ群落
- b5 エゾノサヤヌカガサ群落

w. 開放水域

- w 開放水域



1:2,000

0 50 100m

資料:「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成 26 年 3 月 東京都環境局)